

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

弥富金魚水族館（仮称：YaToMi AQUA）整備事業計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県弥富市

3 地域再生計画の区域

愛知県弥富市の全域

4 地域再生計画の目標

4－1 地方創生の実現における構造的な課題

「第2期弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定時の市民ワークショップにおいて、地場産業の低迷、市のにぎわいや市民が気軽に交流できるスペースがない、市民が誇りに思えるものが少ないといった課題があげられた。

本市の金魚養殖業は、高齢化により金魚組合員は年々減少傾向であり、最盛期（昭和50年代）と比べて約1/4の75経営体となっている。金魚生産の担い手の不足は、産業の衰退の速度を加速させるだけでなく地場産業自体の存続までもが危ぶまれている。しかしながら、弥富金魚の生産は長年地元の職人により伝承されてきたことから、既に作られた領域の中に新しい関係人口が受け入れられるかどうかも課題の一つである。

にぎわいや交流スペースのなさについては、知らない者同士が新しい繋がりを持つ機会や場所もなく、加えて新型コロナウイルス感染拡大が追い打ちをかけたことで、昔ながらの祭りのにぎわいが更に失われている。

また、集客が見込まれる魅力的な観光地が少ないことや、市の農産物を始めとした特産品、弥富金魚、史跡をPRできる観光発信拠点もないことから、市民が誇りに思えるもの、いわゆるシビックプライドを育む環境が熟成していないことも課題である。

4－2 地方創生として目指す将来像

【概要】

弥富市は名古屋駅からの利便性の良さから名古屋市のベッドタウンとして人口が流入し、2010 年頃までは人口が増加傾向となっていた（1995 年から 2010 年における 5 年毎の平均増加率は 1.6%）ものの、昨今における少子高齢化を背景に人口増加率は横ばいとなっている。

令和 2 年度に策定した「弥富市人口ビジョン」における本市の特徴としては、自然増減は減少傾向にあるものの、都市部への利便性の良さから進学、就職による社会増減は緩やかな増加傾向がみられる。

しかしながら、今後の人口の将来展望を推計したところ 2015 年の総人口 43,269 人が 2040 年には 38,808 人となり、約 4,500 人（約 1 割）の減少が見込まれている。

本市の金魚養殖は、江戸時代の文久年間から約 160 年の歴史があり、奈良県大和郡山市、東京都江戸川区と並ぶ金魚の三大産地の一つである。弥富金魚は、50 種を超える品種数や取扱流通量は日本一を誇る。近年は高齢化が進行し、その生産規模は減少の一途をたどっているが、弥富金魚漁業協同組合（以下、金魚組合）では自ら主体となって組織する弥富金魚研究会を中心に金魚養殖技術の伝播・研鑽を行い、対外的な活動としても平成 6 年から始まった金魚の全国的な品評会「金魚日本一大会」、小学生を持つ親子を対象とした「金魚の学校」の開催や、本市と協働して開催するイベントにおいて金魚の PR と需要拡大に努めている。

昨今における新型コロナウイルス感染拡大の影響により、弥富金魚養殖業の売上にも大きな打撃を受けたことから、本市では、令和 2 年度において金魚組合と協働で「弥富の金魚拡散大作戦！！」（名古屋港水族館、愛・地球博記念公園などで開催）を展開し弥富ブランドの金魚や水槽セットを配布（配布合計約 1,500 セット）することで、金魚養殖業の経営を支援した。

また、令和 3 年度には金魚養殖業の支援に加えてふるさと納税の推進を目的として「やとみの金魚すくって★！大作戦！！」（碧南市明石公園、蒲郡市竹島水族館、岐阜県各務原市オアシスパークなどで開催）を展開し金魚すくいの魅力や技を伝えることを通して癒しの時間を参加者と共有し、金魚を通して多くの方へ本市の魅力を地道に PR してきた。（動員数：約 6,300 名）

しかし、今後、高齢化や後継者不足により金魚を生産する担い手の減少はますます加速し、地場産業の衰退だけでなく地場産業自体の存続も危ぶまれている。

一方、本市の地方創生に関する施策に目を移すと、令和2年度に策定した「第2期弥富市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の市民アンケートの調査項目である「本市の定住・移住を促進するために行う施策の重要度」では、情報発信力を強化すべきという回答が7割以上を占めていた。その中で、情報発信力の脆弱性が指摘されていることや魅力のある観光資源や観光地がないといった意見が寄せられていた。

このような状況の中、本市では情報発信と観光施策をつなぎ合わせた事業として、弥富市観光協会（以下、「観光協会」という。）と弥富市歴史民俗資料館を本庁舎南棟1階の設置に合わせ、本市が全国に誇る金魚を展示した弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）を整備し、情報発信力の強化を図ることとした。

この整備事業は、住民が気軽に立ち寄れる場所として「寄ってみよう！のぞいてみよう！やってみよう！」を誘う（いざなう）空間づくりにとどまらず、弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）を観光と情報の発信拠点と位置付けて弥富ブランドの金魚を広告塔として“やとみ”の認知度を高め、市内外の新たな弥富ファンを呼び込み、ひいては関係人口を増やすことを目指している。

令和3年度に開催した弥富金魚関連のイベントでは、参加した皆さんから金魚の飼育方法を始め、個体の生産やその歴史に関するニーズが多いことが把握できたことから、弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）による情報発信や金魚組合と協働で開催するイベントを通じて、金魚の生産にも関わりたい人や金魚を通じたイベントに協力したい人を掘り起こすことができる。前者については金魚生産の協力者、ひいては未来の担い手を、後者については、地域を活性化できる地域創生人材を確保していく。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2022 年度増加分 1 年目	2023 年度増加分 2 年目
弥富金魚水族館（仮称：YaToMi	0	2, 332	3, 556

AQUA) の入館者数(人)			
観光協会 YouTube のチャンネル登録者数(人)	0	200	100
弥富市内で開催する金魚すくいイベントに参加する市外の参加者割合(%)	27.59	0	1

2024 年度増加分 3 年目	2025 年度増加分 4 年目	2026 年度増加分 5 年目	K P I 増加分 の累計
700	700	700	7,988
100	100	100	600
2	3	4	10

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 の③及び5-3 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

弥富金魚水族館（仮称：YaToMi AQUA）整備事業

③ 事業の内容

本市は本庁舎南棟を観光の発信、歴史民俗の探求、市民活動スペースの利活用による市民交流の推進といった複合的な要素を備えた新たな市の拠点に再生し、金魚や市の観光資源、市民協働活動に興味をもつ人を呼び込むための玄関口として弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）を設置する。弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）を設置する本庁舎南棟は、昭和60年7月に竣工した建物であり、保健センター、図書館、市民ホールいう3つの機能をも

つ複合施設であったが、新庁舎新設により、その機能は失われ、新型コロナウイルス感染拡大も影響して、人と人が交流する場がなくなっている。

しかし、この建物に令和4年度から歴史民俗資料館、観光協会、市民活動スペースを設置することで、市民が学び、交流する“にぎわい”を創出する拠点に再生することとした。

弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）は令和4年度予算として工事経費3,454千円を計上し、愛知県豊根村の間伐材を利用した約70本の木製ルーバーの整備、“リュウキン、デメキン、タンチョウ、アズマニシキ、ランチュウ、オランダシシガシラ”といった弥富ブランドの金魚品種を入れた水槽10台の陳列とその水槽置台も愛知県豊根村の間伐材により整備し、本市のふるさと納税返礼品（紙折り細工、こめ、のりといった本市の特産品）・観光史跡マップなどを陳列する木製棚3台や市民同士が交流できるように木製造ベンチ3台を整備する。

この弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）という形は、弥富金魚を本市の一番の観光振興素材として、古くから守ってきた伝統産業として当然にあるべきものだったのかもしれないが、金魚養殖業という限られた領域の中での地場産業であることから、広く積極的に開かれたものではなかった。この弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）を本市の観光振興の拠点と位置づけ、ここからSNSによる情報発信や、イベントの企画開催、人を呼び込み、更にはイベントの協力者を募ることもできれば、イベント参加者だけでなく、弥富金魚に対する市内外の関係者の意識改革も進めることができる。

また、金魚イベントへの協力、金魚の歴史や飼育の方法の学び、そして実際に金魚の生産にも携わってみたいニーズを把握し、これまでには無かった新しい人の流れを生み出すことができ、金魚だけでなく本市の特産品や観光地も展示や情報発信することで、観光資源という切り口で本市の別の顔も認知してもらい、自分なりの“誇り”と呼べるものを育むことができる環境をつくる。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

観光協会は、本市の補助金を主な財源として地域に密着したイベント

（やとみ桜まつり、芝桜まつりなど）や金魚組合や愛知県海南こどもの国と協働して各種イベントを行っている。

本庁舎南棟に新たな観光発信拠点として弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）を設置することで、市職員、金魚組合、商工会などがこれまで以上に積極的に事業を進めていく気運が生まれ、市内外、ひいては全国へ弥富市の魅力を発信できる。情報発信の効果が弥富市の認知度を上げることで、イベント開催時の収入源である「金魚すくい参加料」や「観光グッズの売上収入」といった自主財源の増加が見込まれ、将来的には「稼ぐ」団体として市から分離独立させ補助金に頼らない自立した観光発信団体を目指す。

なお、観光協会の自主財源を増加させることで、市補助金歳出予算の縮減にも繋がる。

観光協会の自主財源の規模は、令和3年度の事務局でのグッズ売上金額約40万円（概算）を参考に5年かけて事業経費及び維持管理経費（支出）を賄える金額（毎年2万円増）を見込んでいる。

これにより、観光協会を運営するための維持管理経費（イベント運営経費及び人件費を除く）は賄えるものの、金魚の個体、酸素等のイベント運営費及び人件費については、当分の間は市補助金を財源として運営する。

【官民協働】

金魚組合との協働イベントを引き続き行うとともに、市内の観光資源を扱う業者の協力を得ながら官民協働を拡大させていく。

また、歴史民俗資料館とのつながりが強くなることから、ふるさとガイドボランティアとも連携するなど、歴史・文化と観光の融合による新たな観光資源を発掘していく。

（官民の役割分担）

官は、行政と金魚組合を始めとする専門の団体との相互調整を行いながら、観光施策の指針を決めていく。具体的には金魚イベントであれば金魚を広告塔とした本市の地場産業、特産品の発信方法やイベント会場

の設定、共催団体との交渉などを行う。

民は、金魚組合、ふるさとガイドボランティアが持つ専門的な知識を活かして、イベントの開催時期、イベント内容の組み立てを行う。

(連携や協働の内容)

連携は、市の歴史民俗の展示イベントや歴史研究成果の公開を行う場合には、ふるさとガイドボランティアの知識や人とのつながりを活用しながら進めていく。

協働は、観光イベントを通じて、本市は金魚養殖業や観光資源を生業とする業者の経営支援を行い、金魚組合や観光資源を生業とする業者は経営の安定を確保していく。

【地域間連携】

令和3年度に愛知県の碧南市内及び弥富市内において碧南市と初めて合同でイベントを開催した。令和4年度はこのイベントを更に進化させて一つの会場内で金魚すくいや双方の特産物、グッズ販売などを行うことで、イベント参加者に対して各地の魅力を同時に提供することができるため、双方の観光資源の発信だけでなく、同時開催の相乗効果として売上収入は単独開催の1.2%増を見込む。

【政策間連携】

①観光振興

本市の観光案内を始め、弥富金魚イベント企画開催と歴史民俗資料館における展示や研究成果の公開は、それぞれ本市商工観光課（観光協会兼務）と教育委員会で独立して行っている。

これらの組織を本庁舎南棟1階に設置し、その玄関口に設置した弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）が人の流れをつくる呼び水となり、観光協会と歴史民俗資料館で協働してYouTube動画を制作・配信することで、今よりも幅広い層のニーズを取り込むことができる。

②水産業支援

これまで弥富金魚はイベントの広告塔の役割が主であったが、金魚養殖業における担い手不足が加速しているという課題を踏まえた上で、弥

富金魚水族館（YaToMi AQUA）における情報発信のあり方やイベントの開催手法を見直しながら進めていくことで、情報の閲覧者やイベントの参加者が弥富金魚をより身近なものと考えていただき、金魚養殖業の水産業関係者についても少しずつ意識改革を行う。

この方策を継続して行うことで、金魚養殖に協力したいという希望者（体験者）を募るといった新しい形の水産業支援を行い、将来の担い手不足の解消を図る。

③市民協働政策

令和4年4月から本庁舎南棟2階に設置する市民活動スペースでは、市民及び市民団体の交流を活性化させる政策が始まる。ここでは、市民のニーズ（多世代交流の場、地域内におけるつながりの場など）やその解決に寄与する人材や場所等の地域資源をマッチングさせる仕組みを構築し、市民同士がつながりをもてるような事業を開始するため、1階の弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）内外の憩いのスペースを活用しながら、新たな市民交流を形成していく。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 5月

【検証方法】

毎年度、外部有識者を交えた弥富市総合戦略推進委員会による専門的見地に基づいた評価・検証を行う。

【外部組織の参画者】

地域経済団体、行政機関、教育機関、金融機関、学識経験者、市民代表など

【検証結果の公表の方法】

検証後、速やかに弥富市ホームページで公表を行う。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 3,454 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2027 年 3 月 31 日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 弥富金魚水族館（仮称：YaToMi AQUA）管理・運営事業

ア 事業概要

弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）を管理運営する観光協会は、施設の利用促進に向けた取組みに加え、観光協会専用のホームページ開設、市職員と協力して作成する YouTube 動画の配信や動画投稿サイトなどインターネットを活用した PR を行う。

また、弥富金魚水族館（YaToMi AQUA）で開催する弥富金魚漁業協働組合との協働イベントを通して、来館者が弥富金魚だけでなく金魚養殖業者ともつながるような仕掛けをつくる。

イ 事業実施主体

愛知県弥富市

ウ 事業実施期間

2022 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2027 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5－2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7－2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4－2に掲げる目標について、5－2の⑥の【検証時期】に7－1に掲げる評価の手法により行う。

7－3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5－2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。